

第2回 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和7年4月25日（金） 午前9時30分から午後3時45分まで
開 催 場 所	青葉区役所4階401～403会議室
出 席 者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 北島 洋美（日本体育大学） 委員 江口 一生（東京地方税理士会緑支部） 　　蕪木 泉（青葉区連合自治会長会） 　　島 美奈子（特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブパレット） 　　鈴木 智香子（認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま） 　　中村 喜代枝（青葉区老人クラブ連合会） 　　平野 香菜（青葉区民生委員児童委員協議会） 　　武藤 恵江（特定非営利活動法人中途障害者活動センター青葉の風）</p> <p>【事務局】</p> <p>青葉区福祉保健センター担当部長 今井 健太郎 青葉区福祉保健課長 大崎 浩樹 青葉区福祉保健課事業企画担当係長 三原 和真 青葉区福祉保健課事業企画担当 丸山 真梨子、平方 遥子</p>
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開（応募団体の面接審査、指定管理者の候補者（以下、「指定候補者」という。）及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者（以下「次点候補者」という。）の選定に関する審議について非公開。）（傍聴者0人）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 会議の公開・非公開について 2 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について <ol style="list-style-type: none"> (1) 審査までの流れ、採点の考え方、選定方法 (2) 応募団体に対するヒアリングの実施について 3 応募団体の面接審査及び指定候補者の選定、講評 <ol style="list-style-type: none"> (1) 大場地域ケアプラザ <ol style="list-style-type: none"> ア プレゼンテーション イ 質疑応答 ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 エ 指定候補者の選定、講評 (2) 鴨志田地域ケアプラザ <ol style="list-style-type: none"> ア プレゼンテーション イ 質疑応答

	<p>ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明</p> <p>エ 指定候補者の選定、講評</p> <p>(3) 恩田地域ケアプラザ</p> <p>ア プレゼンテーション</p> <p>イ 質疑応答</p> <p>ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明</p> <p>エ 指定候補者の選定、講評</p> <p>(4) すすき野地域ケアプラザ</p> <p>ア プレゼンテーション</p> <p>イ 質疑応答</p> <p>ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明</p> <p>エ 指定候補者の選定、講評</p>
決 定 事 項	<p>指定管理者の候補者及び次点候補者として、次のとおり、横浜市青葉区長に報告することとする。</p> <p>1 横浜市大場地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人横浜市福祉サービス協会 次点候補者：なし</p> <p>2 横浜市鴨志田地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人ふじ寿か会 次点候補者：なし</p> <p>3 横浜市恩田地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人みどり福祉会 次点候補者：なし</p> <p>4 横浜市すすき野地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人若竹大寿会 次点候補者：なし</p>
議 事	<p>1 会議の公開・非公開について (事務局) 応募団体審査、指定候補者及び次点候補者の選定に関する審議について非公開とすることを確認。(第1回委員会で審議済み)</p> <p>2 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について (1) 審査までの流れ、採点の考え方、選定方法 (事務局) ・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。 ・1施設に対して1団体のみの応募となっている施設については、最低制限基</p>

準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。

(2) 応募団体に対するヒアリングの実施について

- ・公募の結果各施設 1 団体から応募書類の提出があった旨を報告。
- ・面接審査の流れを再確認。(第 1 回委員会で審議済み)
- ・資格要件を満たすこと、欠格事項に該当しないことを報告。
- ・欠格事項のうち、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。

3 応募団体の面接審査及び指定候補者の選定、講評

(1) 横浜市大場地域ケアプラザ

ア プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

イ 主な質疑応答

(委員) 収支予算書の中で団体本部経費が計上されていないが、間接経費はどのような扱いか。

(団体) 収支予算書はこれまでの精算状況を反映させている。団体本部経費については、経費削減を図り、また介護保険事業で負担する予定。

(委員) 同業他社と比べて人件費率が高いが要因はあるか。

(団体) 職員が全体で 4,000 人在籍している。業界全体として離職率が高いが当法人は離職率が低い。職員の経験に伴って給与を上乗せしており、人材確保をしているのと、研修費用なども含めて人材育成に投資している。

(委員) 法人全体の中で、派遣事業・ホームヘルパーの割合が高いが、人件費に関する影響はあるか。

(団体) ホームヘルパーは 1,000 人弱ほどいる。時給換算で雇用しているが、業界の中では低くない水準を支払っている。4 月にもベースアップをしている。

(委員) 人員配置の考え方について、事業計画書の中で所長の人事費単価が低くなっている年度があるがなぜか。また、昨年度生活支援コーディネーターの欠員があったが、人員配置の具体的な対策はあるか。

(団体) 所長の人事費が年度によって下がる要因としては、ある年齢に達すると給与が下がることが考えられる。昨年度、職員の欠員期間があったが、その後補充し、現在も継続雇用中。生活支援体制整備事業の業務は負担が大きく、所長が並走してきた。社会資源を自分で開拓したいという声も上がっており、2 年目に入って引き続き定着に向けて頑張っている。人材配置について、法人の離職率は低いが、業界全体として離職率が高く、人材流失が激しい。採用には時間がかかり、1 ~ 3 か月程度空いて

しまうこともある。人材紹介会社を使いながら、地域に迷惑をかけないように配置していきたい。

(委員) 資料もプレゼンの中でも地域を細かく見ていると感じ、さすが全区に施設を構える法人だと感じた。地元で活動していると、生活支援コーディネーター、地域活動交流コーディネーターにお世話になっており、感謝したい。資料中に虐待が倍になっている数値があるが、これについてどう考えるか。

(団体) 相談の中には個々の課題があり、一律には対応できない。職員が地域に出向いて、お話を聞きながら対応することが大切と考えている。その中で、共通の悩みがあれば、グループとして対応することもあり得る。

(委員) 子育て支援について。地域ケアプラザ内にも親子がフリーで過ごせる場所があるが、子育て世代も、山坂が影響してつながりにくい地域性があると思うが、対策はあるか。

(団体) 地域ケアプラザに来る手段がない人も多いので、自治会館などでサロンを開いているところに出向いていき、そこだけでは解決しない課題を地域ケアプラザが支援して関係機関につなぐなどの支援をしている。地域ケアプラザを周知すると同時に、地域の場に訪問して活動することが大切だと考えている。

(委員) 資料の中で、災害に備える取組についての記載があるが、感染症対応について、具体的な対策はあるか。

(団体) 法令上毎年研修の実施が定められていることもあるが、感染症 BCP を策定し、訓練を行っている。デイサービスの看護師がいるので、専門職の協力を得て、備品の在庫確認などを定期的に行ってい。

ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明

- ・事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。
- ・事務局より前期実績報告書について説明。
- ・江口委員より財務分析結果報告書について説明。

エ 指定候補者の選定、講評

応募者から提出された応募書類及び面接審査等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会	1,434／1,950 点	1,362 (1,062) 点
次点候補者	なし		

(審査講評)

- ・アウトリーチを大切にしている様子が分かった。地域活動の中で課題が見つかったときに地域ケアプラザが相談しやすい場所になっていって欲しい。地域ケア会議等、その後につながる話があればもっとよかったです。地域の課題解決に貢献してほしい。
- ・発表の中で介護者のつどいが紹介されたが、支援者のコミュニティも大切。積極的に広げていってほしい。
- ・大きい法人なので、欠員対応は法人内部で工夫できるように考えて欲しい。3か月欠員が出てしまうのは長いと感じた。
- ・あざみ野団地の高齢化率は非常に高いが、元気な方が多いのは地域ケアプラザの力が大きいのではないか。
- ・法人内のネットワークなどを活かして他の地域ケアプラザをけん引してほしい。

応募団体の得点は最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人横浜市福祉サービス協会を指定候補者として選定することを決定する。

(2) 横浜市鴨志田地域ケアプラザ

ア プрезентーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

イ 主な質疑応答

(委員) 地域全体に活動を広げていて、地域の方々は心強いだろうと感じた。

「気づきの和連絡会」の中で、NPOの名前もあるが、どのような協働をしているか。

(団体) エリア内に事業所があり、マーケットをしているということで声をかけてもらって交流が始まった。「気づきの和連絡会」は地域の方々が声を上げてできたもので、地域ケアプラザ発信ではないが、NPOも後方支援として関わってくれている。年2回広報誌の発行をしており、そこで地域ケアプラザの宣伝もしている。

(委員) 収支予算書の中に団体本部経費の計上がないが、本部の間接経費はどのような扱いか。

(団体) 地域ケアプラザ指定管理料から支出したことはない。経理がいないので正確に答えられないが、余裕がないので支出していないのだと思う。

(委員) 過去の業績について、収益性の面で懸念があると思うが、どのような対策をしているのかと現状はどうか。

(団体) 出先機関は収益性が悪い。施設長会議で改善を検討している。通所介護施設の利用者が確保できておらず、外部施設を見学して参考にしたい。また、人材確保が課題としてあり、派遣会社で賄っているが、高額である。外国人も雇用している。認知症の実践研修を受けていない職員のた

めに、資格取得のための研修を実施している。

(委員) 人件費比率が高いようだが、人材派遣を利用している関係か。

(団体) 影響がある。人員が埋まるまでは人材派遣を利用せざるを得ないが、なるべく使わないで済むように地域に求人のチラシをまいたりしている。運転手・保健師もそこから採用していきたいと考えている。

(委員) 外国人を採用しているということだが、賃金水準は日本人スタッフと同等ということで間違いないか。

(団体) 他の職員と同等。地域ケアプラザでは特定技能実習生を1名雇用している。法人の中でも様々な施設で雇用している。

(委員) 外国人の職員がいるとのことだが、スタッフ同士・利用者とのコミュニケーションに問題はないか。

(団体) 一部わからない言葉はありながらも会話はできている。該当の職員は地域ケアプラザでは食事前の口腔体操を担当している。日本語を勉強しながら、介護福祉士の資格を取っている。利用者とも良い関係を築いていることを確認している。

(委員) 「気づきの和連絡会」について、みらいづくり大学校で発表されているの聞いた。メンバーが素晴らしい。こういう組織はあまり聞いたことがなく、反響が大きく、評価が高かった。これからも続けていってほしい。

(団体) 外部からも見学があり、こちらとしても、地域福祉保健計画からつながった顔の見える取組として重視している。これからも継続していく。

ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明

- ・事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。
- ・事務局より前期実績報告書について説明。
- ・江口委員より財務分析結果報告書について説明。

エ 指定候補者の選定、講評

応募者から提出された応募書類及び面接審査等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 ふじ寿か会	1,152／1,950 点	1,138 (1,062) 点
次点候補者	なし		

(審査講評)

- ・現場の人は頑張っていることが伝わった。しかしながら、応募書類のファイル背表紙に地域ケアプラザ名が入っていない。応募書類も、コンパクトに絞ると

いう考え方もあるが、しかるべき量で説明するべきではないか。書類でも、プレゼンテーションでも、伝え方はもっと上手にしてほしいと思った。プレゼンテーションで伝わる熱意で合否に関わる1点差があることがあるが、その熱意が伝わらなかった。運営法人として企業家の視点もしっかり持ってもらいたい。行政としても鴨志田地域ケアプラザの運営に対して丁寧に寄り添つていってほしい。

- ・取組自体はとても良く、地域に寄り添っている。気づきの和連絡会も、地域発信で始まり、地域ケアプラザが形にしていて、理想の形である。大きい法人なので、理事長がどこまで把握しているかはわからないが、財務に不安を感じる。人材派遣の活用は大変なことも多い。常勤職員の定着率はよいということだったので、そこを伸ばせればよいと思う。
- ・縦横斜めのネットワークを作っていて素晴らしい。行き来のしにくい寺家地区とたちばな台地区の両方の人たちを大切にしている姿勢は評価できる。これまでの実績を生かして、継続して良い事業をやっていってほしい。
- ・資料の中で「地域のニーズに合わなかつた事業は休止・縮小も検討」とあり、苦労が伺える。介護保険事業の利用を上げたいともあり、経営に関わることなので努力していって欲しい。
- ・具体性がない記載が多かった点も、評価が伸びなかつた原因かと思う。
- ・社会福祉法人の経営にアドバイスをするところがあると思う。社会福祉法人が倒産することも起こりうる時代となってきたので、経営者としての覚悟が法人幹部には必要。本部経費の質問に、法人本部の方が良く分からぬといふのは問題。

応募団体の得点は最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人ふじ寿か会を指定候補者として選定することを決定する。

(3) 横浜市恩田地域ケアプラザ

ア プrezentation

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

イ 主な質疑応答

(委員) 前期の人員配置を見ると欠員がいくつかあるが、欠員が出たときのフォローはどう考えているか。今後の人員確保についてどう考えているか。

(団体) 残っているメンバーでやらざるを得ないので、日頃から事業内容を共有し、複数名で対応している。事業内容によって専門性が異なるので、地域包括支援センター職員、コーディネーター、所長が目的に応じてカバーしてきた。地域ケアプラザでは有資格者の確保が非常に困難で課題となっている。法人としても、複数の求人広告を出している。有資格者の人材確保として、現在はエージェント型の転職が主流なので、丁寧な

	<p>紹介をしてくれる会社と日頃から関わりを持っている。</p> <p>(委員) 収支計画書について、提案書の中に団体本部経費が入っていないが、間接経費の考え方。</p> <p>(団体) 地域ケアプラザ内の居宅介護支援事業部門で法人経費を拠出しているので、指定管理料からは支出していない。</p> <p>(委員) 魅力的な活動が進められている。課題を見つけたときに課題解決に向けて地域ケア会議があると思うが、資料には具体的に記載がないので話を聞きたい。</p> <p>(団体) 昨年度2回の地域ケア会議を実施した。コロナ禍で中断していたが、団体の顔合わせを目的として、令和5年度にエリア会議を1回実施した。令和6年度は2回行った。1回目は地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、連合自治会、訪問事業所等をメンバーとして、具体的な地域課題をグループワークで取り上げた。2回目は1回目からテーマを絞って、地域住民・地域事業所（訪問介護・看護）とのつながりを課題として行った。令和7年度も、引き続き交流を課題に、個別ケースについてもやっていきたい。</p> <p>(委員) 個別ケースに困難を抱えていることが多いので、関係者と協力しながら、家族全体を見守ることが大切なので引き続きお願いしたい。</p> <p>(委員) マップの作成、各事業・関連施設との連携が素晴らしい。関係性を拡大していく努力について教えてほしい。現在、老人会でeスポーツに取り組んでいるが、老人会だけでは難しいこともある。地域ケアプラザで取り上げて進めてきた点について教えてほしい。認知症の方にお花を植えていただく事業について、いい発想だと思う。「GREEN×EXP02027」の時代性を踏まえて認知症と繋げたのは素晴らしい。取組の発想と、過程について教えてほしい。</p> <p>(団体) 地域とのつながりについて。法人としては、戦後まもなくから緑区を拠点に活動しており、地域の方々との長年のネットワークがある。連合自治会をはじめ、周りに恵まれて素晴らしい関係性を作らせていただいている。マップに掲載した喫茶店、お寺等のつながりについても、地域に出向いた際に、地域の方から教えていただいてつながったところがほとんど。地域の方が様々教えてくださるので、地域の声からつながりを作っている。eスポーツは、地域ケアプラザだけでもできなかつた、老人クラブの熱意があったので、一緒にやっていきたいと感じた。話し合いを続ける中で、地域課題につながることが分り、法人の理解もあり、ゲーム機の購入、定例会を開催するまでになった。積み重ねにより実現できている。お花を植える活動について、認知症になったことで、地域活動に参加できなくなり、孤立してしまっている方を、民生委員・児童委員や地域の方が心配していたということが地域課題としてあつ</p>
--	---

た。まずは認知症サポーター養成講座などで地域の中に理解者を増やし、認知症の方でも参加できる活動として、「GREEN×EXP2027」のこともあり、お花に関する活動について地域の方に相談して、多くの方の協力をいただき形になりつつある。

ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明

- ・事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。
- ・事務局より前期実績報告書について説明。
- ・江口委員より財務分析結果報告書について説明。

エ 指定候補者の選定、講評

応募者から提出された応募書類及び面接審査等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 みどり福祉会	1,337／1,920 点	1,351 (1,044) 点
次点候補者	なし		

(審査講評)

- ・人員配置の点が気になった。同法人の別の地域ケアプラザは満たしているが、法人内で補えないものか。「地域包括支援センター職員不在」と言われたときに、誰を頼ればいいのか?となる。今後、法人全体で調整する仕組みを検討してほしい。
- ・歴史のある法人で、地域から頼りにされていることが伝わった。ネットワークマップの作成やコーディネーターが自分の言葉で話せるのが素晴らしい。
- ・地域の交流が密と感じたので、これからも意識して続けていってほしい。
- ・お寺とのつながりは聞いたことがなかったので素晴らしいと思った。お寺、神社なども網羅して1つの町と考えている柔軟性がよい。地域ケアプラザの発信力、求心を感じた。
- ・法人内に関連事業所・団体があり、横のつながりがあるのは強み。関連施設が連携していることで地域の方には頼りになるし、相談しやすいのかなと思った。

応募団体の得点は最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人みどり福祉会を指定候補者として選定することを決定する。

(4) 横浜市すすき野地域ケアプラザ

ア プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

イ 主な質疑応答

(委員) すすき野庵について教えてほしい。

(団体) すすき野庵を週1回開催している。キーワードは「生きづらさを抱える方の相談の場」として、引きこもりという言葉は使っていない。様々な人の相談を受け止めることは条例でも地域ケアプラザの役割として定められていて、わざわざ謳う必要はないのだが、あえて表示している。老若男女様々な人から相談があり、相談機関からリファレンスで来ることもある。その中で、外に出られない人に、プッシュ型でアプローチし、少しの変化をとらえて「こんな集まりがあるがどうですか」と声かけをしている。すすき野庵のつどいをきっかけにして、地域の盆踊りに参加するようになったケースもある。

(委員) 収支予算書の中で団体本部経費の記載があるが、経費の内訳、金額根拠を教えてほしい。

(団体) 地域ケアプラザで行う事務、労務管理、弁護士顧問料等を各拠点が職員人数で按分して本部費用として計上している。

(委員) 成長し続けている団体、という説明があったが、法人として、今後5年～10年の投資計画は立てているのか？

(団体) 計画は立てている。法人規模を大きくしていくことが、世のためにもなるし、職員のポストを確保することにもつながる。

(委員) 職員確保について。現在欠員は0人だが、過去3年間では複数名の欠員が生じている。応募書類の中で人材確保について記載があるが、説明と相違があるように感じるが。

(団体) 職員の欠員について、人材不足が業界全体の課題としてある。様々な理由で欠員は発生してしまうが、埋める努力、維持する努力をしている。法人全体を挙げて、いかに早く埋められるかという点を頑張っている。

(委員) 業界の人材不足の状況を理解したうえでの質問だが、昨年度の保健師の欠員日数は長かったが、今後の対策はあるか。

(団体) 昨年度の欠員に関しては、職員の病気によるもの。法人全体として、採用コストもかけていて、どこに欠員が発生しているか、一覧化して採用担当と相談している。また、何名かの応募はあったが、地域ケアプラザ保健師に求める質も担保する必要があり、採用までに時間がかかった。

(委員) 多様な親子にむけた支援をしていただいている。外国人への対応について教えてほしい。また、親子に対するアプローチについて。

(団体) 外国にルーツを持つお子さんがすすき野は結構多いが、なかなか地域コミュニティとの接点を持ちづらい。父親は就労していて、母親がコミュニティにつながれない現状などがある。お子さん同士の集まりに場の提供はしており、そこから日本人コミュニティにもつなげていきたい

と思っているが、現状はそこまでできていない。また、生活困窮問題等、個別支援で橋渡しをして支援している。親子支援については、未就学の子、母、障害のある方の広場を開催している。

(委員) すすき野庵について。引きこもりの方を対象としたつどいは珍しい。他地区からの参加はあるか。参加者の世代は。

(団体) すすき野地域ケアプラザはすすき野地区、中里地区が担当地区であるが、地区外や他区から来る方もいる。地域活動交流をベースにしているので、エリア外でも問題はない。オンラインでの取組も年に1～2回行っており、これは全国から参加がある。参加者の年代は50歳を中心として、20～60代と幅広い参加がある。高齢の親とその子という世帯構成が多い。

ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明

- ・事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。
- ・事務局より前期実績報告書について説明。
- ・江口委員より財務分析結果報告書について説明。

エ 指定候補者の選定、講評

応募者から提出された応募書類及び面接審査等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 若竹大寿会	1,231／1,920点	1,252 (1,044) 点
次点候補者	なし		

(審査講評)

- ・県内で多くのサービスを提供しており、基盤のしっかりしている団体。こういうところが地域ケアプラザを運営してくれるのはありがたい。制度のはざまなどの課題も分析・把握されているので、把握した課題に対して「〇〇していきたい」だけでなく、しっかりと取り組んでいってほしい。
- ・分析力に優れている法人を感じた。出てきた課題へのアプローチを着実に進めていってほしい。
- ・プレゼンテーションの仕方、話のスピードが分かりやすかった。伝える力は地域ケアプラザに必要な資質。

応募団体の得点は最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人若竹大寿会を指定候補者として選定することを決定する。

	<u>4 閉会</u>
資 料 ・ 特 記 事 項	<p><u>1 資料</u></p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 応募書類一式 (2) 採点表 (3) 前期の指定管理業務の実績報告書・事業実績評価結果（令和3年～5年度） (4) 財務状況に関する外部評価の結果 (5) 選定方法及び最低制限基準について（第1回選定委員会配布資料） (6) 応募法人に対するヒアリングの実施方法について（第1回選定委員会配布資料） (7) 第1回選定委員会議事録 (8) 第2回地域ケアプラザ指定管理者選定委員会の開催スケジュール <p><u>2 特記事項</u></p> <p>特になし</p>